|  |  |
| --- | --- |
| **タイトル** | ゴルフによる地域創生のための地域コンソーシアム設立案 |
| **著者** | 小林 勝法、北 徹朗、大石 順一 |
| **内容**  若者の定着と交流を図るために、地域資源をより魅力あるものとして地域経済を活性化するために20代後半～70代まで実施人口が平均的に分布するゴルフの普及、ゴルフ場を活用した産学官連携の取り組みとして、地域コンソーシアムの設立を立案する。  　数あるスポーツの中でゴルフである理由：①参加人口が多く、スポーツ施設業として最大のマーケットであること②最盛期の頃から大きく参加率は落ち込んでいるが、逆に考えると同程度まで回復する潜在力があると考えられること③産学連携の取り組みが進んでいることが挙げられる。  　地域連携を軸として、ゴルフ団体・地方自治体・高等教育機関などがコンソーシアムを設立し、幅広い年齢層を対象とした産学官連携の事業を行うことで地域住民の交流を促進し、地域経済を発展させ、健康まちづくりを目指すことを提案している。将来のビジョンとして、ゴルフによって、大学生をはじめとする若者の賑わいを創出し、若者の定着を推進し、婚活を促進する。さらに幅広い年齢層での交流も創出する。地域経済については、ゴルフ関連産業の活性化だけに留まらず、若者の定着による地域産業への人材供給が可能となり、人口減少を和らげる。そして、ゴルフによる健康増進は、超高齢社会における各種課題の解決や「健康経営」による企業の収益アップにつながることも期待できる。  　既存の産学官連携事業をベースとするための初期コストがほとんどかからず実現することが出来る。スポーツ庁の施策である「スポーツ健康まちづくり」の事業として推奨することによって、地方自治体や商工団体も取り組みやすくなり、協賛金も集めやすくなる。 | |